

# NEWS LETTER

特別支援学校就労応援団とやまニュースレター・vol.11 令和5年12月発行

今年度もたくさんの企業等にご協力いただき、就業体験をすすめることができます。体験を通して働く意欲を高め、社会的・職業的自立に必要な知識や技能を身に付け、進んで社会参加していける力を育てています。

## 働く力を育むために ー特別支援学校の取組②ー

### ー就業体験報告会ー

前回は就業体験前に行っている学校の取組について紹介しました。今回は、就業体験後の学校の取組について紹介します。

各学校では、就業体験後に個々で振り返りを行ない、体験先や業務内容、個人目標と体験先での評価を資料にまとめています。資料をもとに学部や学年で就業体験報告会を実施し、生徒が就業体験の成果や課題の確認をしたり、様々な職場や業務の理解を深めたりしています。

#### <就業体験報告会後の生徒の変容>

- ・他の生徒の頑張りを知ることで、大きな声で挨拶をしたり、作業に積極的に取り組んだりする生徒が増えた。
- ・生徒が自ら次の体験先や進路について考える様子が見られるようになった。



### ー事例紹介（就業体験）ー

#### 商業施設での清掃業務

就業体験初日、床のモップ掛けから出入口の清掃、駐車場のゴミ拾い、トイレ清掃までの一連の流れについて、会社の方に手本を示してもらい、教えていただいた。開店前の限られた時間の中での説明だったため、生徒は作業内容をおおまかに理解することはできたが、理解が曖昧な部分があった。



#### <対応>

巡回担当の教員が、作業ごとに手本を見せたり、助言したりして、一つ一つの作業を再度生徒と確認した。また、それぞれの作業にかかる時間についても確認した。

#### <生徒の変容>

2日目からは、生徒は指示を確実に守り、会社の方が想像する以上の働きができた。

#### ポイント

- ・示範・作業の細分化・目安の提示によって、円滑に業務に当たることができそうです。
- ・就業体験中、学校の担当者が巡回訪問します。必要に応じて、企業担当者と学校担当者が連携することで、支援の適切な質や量を検討することができます。

## 「特別支援学校就労応援団とやま」 ー登録企業の声②ー

今回も「特別支援学校就労応援団とやま」登録事業者の障害者雇用についての思いや考え等について紹介します。

富山県中小企業家同友会 ダイバーシティ委員会 副委員長  
(株)with One 代表取締役 浅井 様

富山県中小企業家同友会では、20年以上前から会員企業の協力を得て特別支援学校高等部の生徒を対象に仕事見学会を行っています。その打ち合わせや、振り返りなどのために会員企業と特別支援学校の先生方との意見交換会も年2回行っています。会員企業の中には、何年も前から障害者を社員として受け入れて、一緒に働いている企業もあれば、仕事見学会を通じて初めて障害者と直接職場でかわりをもつ企業もあります。障害者も一人ひとり特性が異なるように、企業もその数だけ性格が違います。より多くの企業が、障害者雇用を身近な問題として考えるきっかけになればと思い、上記の見学会を始めたのです。

一般企業が障害者を受け入れる利点はいくつかありますが、私が最も大きな利点だと思うのは「個々の社員をしっかりと観察して、その人を活かす働き方を見つけようという視点を持つようになる事」だと思っています。障害者の働き方を工夫していく事で、他の社員の働き方にもしっかりと着目し、人を活かす働き方について考える事ができるようになります。それは社員の力をより引き出すことに通じるでしょう。

意見交換会では「企業と支援者が互いをもっと知る必要がある」との話が毎回出ます。そこをクリアするために、それぞれの立場で何をしなければならぬのか。より具体的に次の一歩を進めるために、一緒に考えて行動に移していきましょう。

富山県教育委員会県立学校課特別支援教育班 発行  
TEL 076-444-3451 FAX 076-444-4437

★登録企業の詳細はこちらから⇒



「自分たちに何ができるだろう…」とお悩みの企業様。まずは、特別支援学校にお気軽に声をおかけください。そして、生徒の姿や学習の様子をご覧ください。